

業況概要(自社)

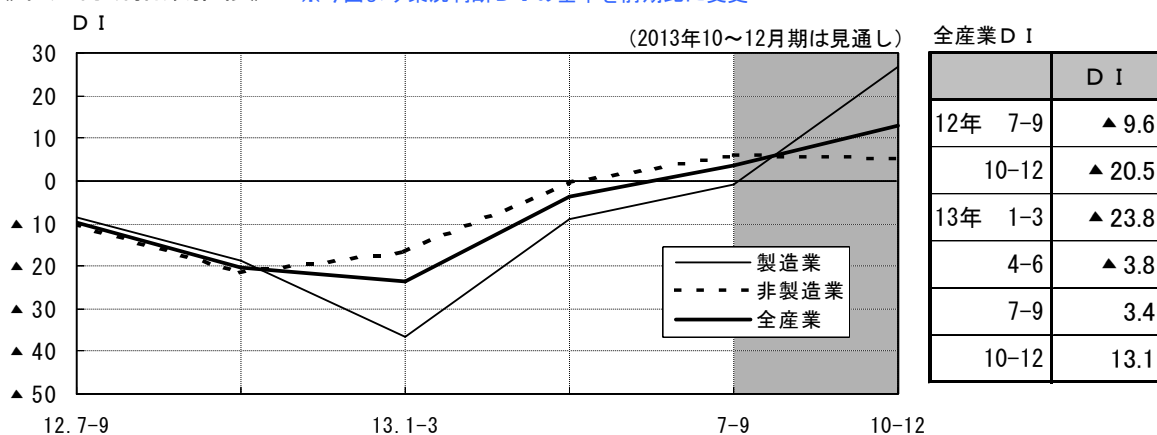
～全産業D I は2006年以来のプラス水準を回復～

静岡県東部地域における2013年7～9月期の業況判断D I（対前期比）は全産業で3.4（前期▲3.8）と連続して上昇し、2006年1～3月期以来となるプラス水準を回復した。うち、製造業では一般機械器具やパルプ・紙・紙加工品など多くの業種でD Iの改善が進み、全体で▲1.0（同▲9.1）と回復した。また非製造業でも各業種で上昇し、全体で5.9（同▲0.6）と引続き改善している。

2013年10～12月期の予想D Iは、全産業で13.1と引続き上昇が予想されている。特に製造業では26.9と今期比大幅な上昇が期待されている。また非製造業では5.3と横ばいながらプラス水準は維持している。

《業況判断指数推移》

※今回より業況判断D Iの基準を前期比に変更



D I : ディフュージョンインデックス (Diffusion Index) の略。

「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

《業種別天気図》

業況上昇 ← → 業況下降

年	業種	業況				業況			
		製造業	食料品	パルプ・紙・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス業	旅館・その他宿泊所	建設業
2013年	4～6月期	☁	☀/☁	☂	☂	☁	☁	☁	☁
2013年	7～9月期	☁	☂/☂	☂	☂	☁	☁	☁	☀/☂
2013年	10～12月期	☀/☁	☀/☁	☁	☀/☁	☁	☁	☀/☁	☀/☁

※2013年4～6月期、7～9月期は前期比、10～12月期は今期比見通し

《調査の概要》

- 調査目的
静岡県東部地域（富士川以東）の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
- 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 629社
回答数292（回答率46.4%）
※業種別企業数は4ページ図表を参照
- 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
- 調査対象期間
実績：2013年7～9月期
見通し：2013年10～12月期
- 調査時点
2013年8～9月

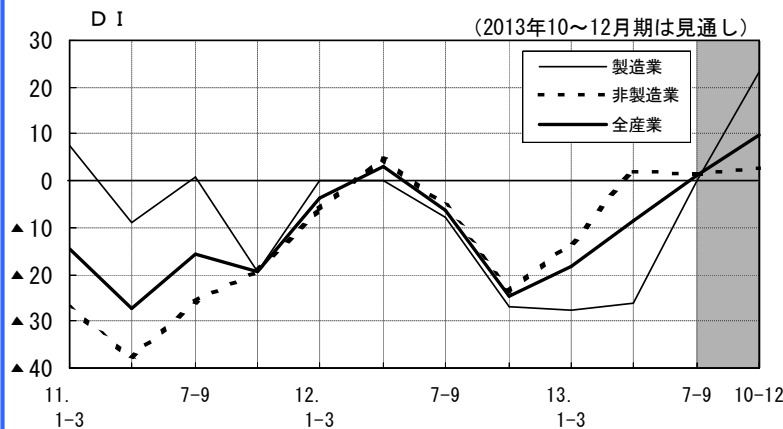
売上動向

製造業は各業種で大幅な上昇、非製造業は横ばいもプラスを維持

2013年7～9月期の全産業の売上動向D I（対前年同期比）は1.0（前期▲8.7）と3期連続して改善され、2012年4～6月期以来となるプラス水準を回復した。前期まで停滞していた製造業では、食料品（18.8）やその他製造業（4.9）でD Iがプラスになるなど各業種とも大幅に上昇し、全体で0.0（前期▲26.3）と急激な回復を示した。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所（37.5）で大幅に上昇したが、建設業（11.3）やその他小売・サービス業等（▲7.6）で若干低下したため、全体で1.6（前期1.8）と横ばいで推移した。ただしプラスの水準は維持している。

2013年10～12月期の予想D Iは、全産業で10.0と引続き上昇が見込まれる。うち製造業では23.1と回復への期待感が持続している。一方、非製造業でも2.7と今期比では若干上昇が見込まれるが、製造業と比較すると横ばいの基調が目立っている。

《売上動向の推移》



	前期	今期
食料品	▲30.0	18.8
パルプ・紙・紙加工品	▲28.6	▲14.3
金属製品	▲31.3	▲7.7
一般機械器具	▲36.8	▲10.0
その他製造業	▲17.5	4.9
製造業計	▲26.3	0.0
旅館・その他宿泊所	0.0	37.5
その他小売・サービス業等	▲6.4	▲7.6
卸・小売・サービス業計	▲5.5	▲2.2
建設業	16.1	11.3
非製造業計	1.8	1.6

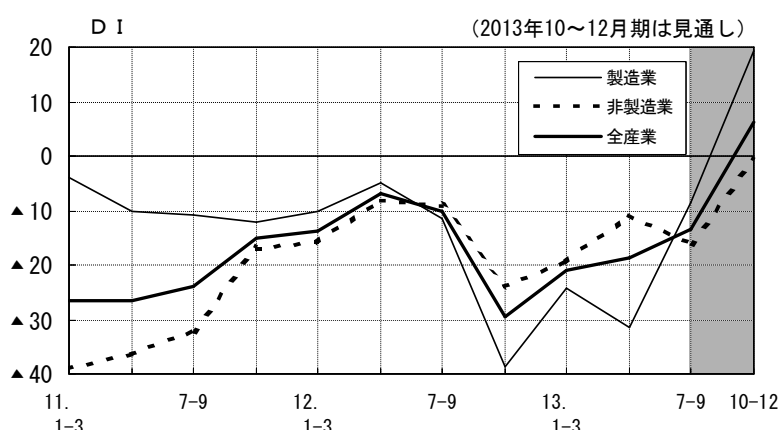
利益動向

製造業は大幅に回復も、非製造業は低下に転じる

2013年7～9月期の全産業の利益動向D I（対前年同期比）は▲13.4（前期▲18.6）と前期に引続き若干の上昇となった。製造業では、一般機械器具（▲20.0）はわずかな上昇にとどまったが、食料品（▲12.5）、パルプ・紙・紙加工品（▲7.1）、金属製品（▲15.4）などは前期比で大幅に改善され、全体でも▲8.7（前期▲31.3）と、売上動向と同様に急激な回復を示している。一方、非製造業は旅館・その他宿泊所（18.8）では大幅に上昇したが、その他小売・サービス業等（▲26.1）と建設業（▲3.8）では前期比低下に転じたことから、全体でも▲16.0（前期▲11.0）と低下し、足元での回復感是一段落している。またこの結果、製造業のD Iが非製造業の水準を上回った。

2013年10～12月期（見通し）の予想D Iは、全産業で6.2と今期比さらなる上昇が見込まれている。製造業では19.2と大幅上昇の持続が予想され、非製造業でも▲1.1と回復への期待感が強く現れている。

《利益動向の推移》



	前期	今期
食料品	▲40.0	▲12.5
パルプ・紙・紙加工品	▲28.6	▲7.1
金属製品	▲31.3	▲15.4
一般機械器具	▲21.1	▲20.0
その他製造業	▲35.0	0.0
製造業計	▲31.3	▲8.7
旅館・その他宿泊所	▲14.3	18.8
その他小売・サービス業等	▲17.2	▲26.1
卸・小売・サービス業計	▲16.8	▲20.7
建設業計	0.0	▲3.8
非製造業計	▲11.0	▲16.0

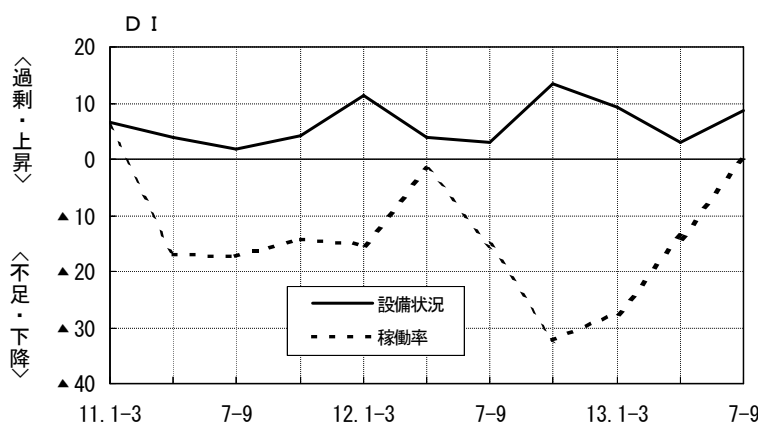
設備状況・稼働率
(製造業)

設備状況はやや「過剰」感も、稼働率はD Iがさらに改善

2013年7～9月期の設備状況D Iは8.7(前期3.0)と前期比若干の反転上昇となり、「過剰」感がやや強まった。業種別では、食料品(0.0)はD Iが前期比横ばいとなったが、前期に低下していた金属製品(30.8)やパルプ・紙・紙加工品(7.1)ではD Iの上昇が目立つ他、一般機械器具(10.0)も上昇している。一方、その他製造業(4.9)では前期比低下となっている。

一方、稼働率D Iは0.0(前期▲14.1)と3期連続で上昇が続き、震災直前の2011年4～6月期以来続いていた「下降」から「横ばい」まで回復している。業種別では食料品(▲18.8)のみD Iが大幅に低下しているが、金属製品(23.1)やその他製造業(7.3)はD Iが大幅に上向き、稼働率は「上昇」の判断となった。また、パルプ・紙・紙加工品(▲7.1)や一般機械器具(▲10.0)でもD Iの大幅な改善がみられるなど、多くの業種で稼働率の上昇や下げ止まり感が出てきている。

《設備状況・稼働率の推移》



設備状況	前期	今期
食料品	0.0	0.0
パルプ・紙・紙加工品	▲7.1	7.1
金属製品	0.0	30.8
一般機械器具	5.3	10.0
その他製造業	7.5	4.9
製造業計	3.0	8.7

稼働率(対常態)	前期	今期
食料品	10.0	▲18.8
パルプ・紙・紙加工品	▲28.6	▲7.1
金属製品	▲6.3	23.1
一般機械器具	▲36.8	▲10.0
その他製造業	▲7.5	7.3
製造業計	▲14.1	0.0

在庫状況
(製造業)

パルプ・紙・紙加工品、その他製造業などでD I低下、在庫過剰感が弱まる

2013年7～9月期の在庫状況(製造業)D Iは3.8(前期16.5)と大幅に低下し、リーマンショック直前の2008年4～6月期以来の低い水準となった。全体の回答傾向をみると、「過剰」が12.5%(前期19.6%)と前期までの水準からやや低下した一方、「不足」は8.7%(同3.1%)とやや増加している。

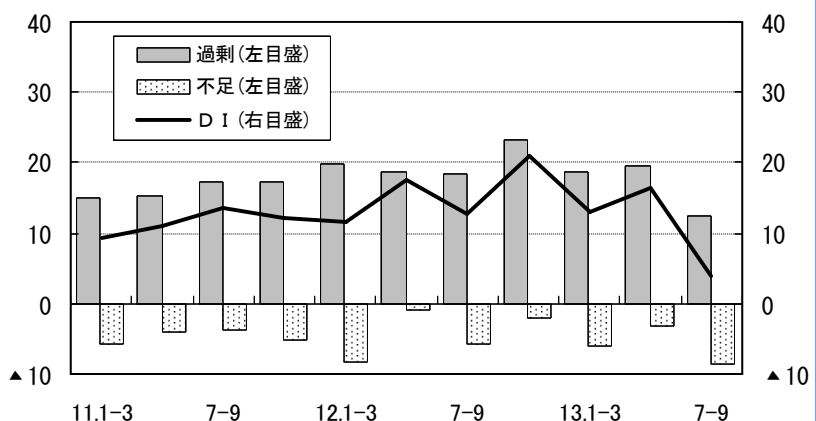
業種別では、前期D Iが唯一マイナスを示した食料品で▲6.3(前期▲20.0)と上昇し、在庫不足感は弱まった。また金属製品も7.7(同6.7)とやや上昇した。一方で、パルプ・紙・紙加工品(0.0、前期35.7)、その他製造業(2.4、前期20.5)ではD Iが大幅に低下し、在庫過剰感は緩和された。また一般機械器具でも15.0(前期21.1)と在庫過剰感はやや弱まっている。

《在庫状況》

	(前期) 2013年 4～6月期	(今期) 2013年 7～9月期
過 剰	19.6 %	12.5 %
適 正	77.3 %	78.8 %
不 足	3.1 %	8.7 %
D I	16.5	3.8

(%は回答企業の比率)

《在庫状況の推移》



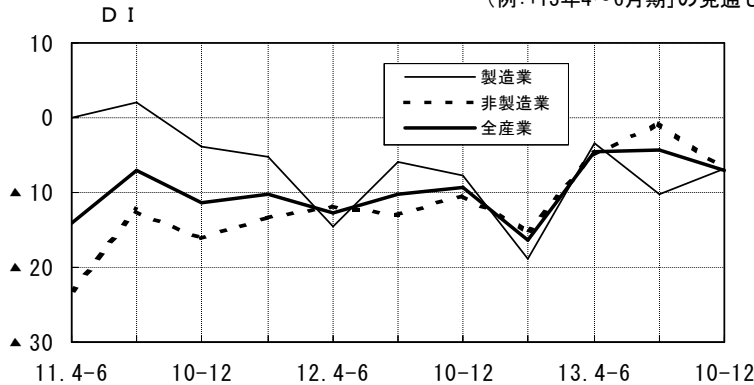
設備資金借入
動向(来期)

製造業ではD Iが前期比上向くが、非製造業では低下

2013年10～12月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し) D Iは▲7.0(前期▲4.2)と若干低下し、借入抑制の基調がやや強まっている。業種別では、製造業は一般機械器具で前期比D Iが低下したが、食料品やその他製造業のD Iが上向き、全体では▲6.9(前期▲10.3)と上昇に転じた。一方、非製造業では建設業で上昇しているが、旅館・その他宿泊所でやや低下、その他小売・サービス業等でも前期を10ポイント以上下回ってD Iがマイナスとなり、全体でも▲7.0(同▲0.6)と低下した。この結果、製造業と非製造業で対照的な動きとなり、両者のD Iはほぼ同水準となっている。

《設備資金借入動向推移(見通し)》

※すべて「来期の見通し」について調査
(例:「13年4～6月期」の見通しは、同1～3月期時点の調査結果による)



	前期	今期
食料品	▲20.0	12.5
パルプ・紙・紙加工品	▲23.1	▲21.4
金属製品	▲12.5	▲15.4
一般機械器具	▲5.3	▲21.1
その他製造業	▲5.1	0.0
製造業計	▲10.3	▲6.9
旅館・その他宿泊所	20.0	12.5
その他小売・サービス業等	2.2	▲10.2
卸・小売・サービス業計	4.7	▲7.5
建設業計	▲10.7	▲5.8
非製造業計	▲0.6	▲7.0

経営上の問題点

「受注・売上の停滞・減少」の比率が連続して低下

回答数上位の「受注・売上の停滞・減少」(51.4%)の比率が連続して低下、「過当競争・製品安」(39.7%)は横ばいが続いている。この他では、「人材の育成」(36.6%)「その他経費の増加」(21.9%)が製造業や卸・小売・サービス業で増加し、順位が上昇した。一方で、前期に比率を上昇させた「原材料・仕入商品の値上がり」「人件費の増加」はやや比率を下げている。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	13年1～3月期		13年4～6月期		13年7～9月期		順位 変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	146	58.9	149	56.2	150	51.4	→
2. 過当競争・製品安	97	39.1	104	39.2	116	39.7	→
3. 人材の育成	84	33.9	89	33.6	107	36.6	↑
4. 原材料・仕入商品の値上がり	73	29.4	100	37.7	102	34.9	↓
5. 従業員の高齢化	60	24.2	65	24.5	69	23.6	→
6. その他経費の増加	52	21.0	46	17.4	64	21.9	↑
7. 生産・販売能力の不足	54	21.8	46	17.4	56	19.2	→
8. 人件費の増加	37	14.9	48	18.1	41	14.0	↓

《業種別：回答企業数およびD I》

※設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	16	18.8	▲12.5	0.0	▲18.8	▲6.3	12.5
パルプ・紙・紙加工品	14	▲14.3	▲7.1	7.1	▲7.1	0.0	▲21.4
金属製品	13	▲7.7	▲15.4	30.8	23.1	7.7	▲15.4
一般機械器具	20	▲10.0	▲20.0	10.0	▲10.0	15.0	▲21.1
その他製造業	41	4.9	0.0	4.9	7.3	2.4	0.0
製造業計	104	0.0	▲8.7	8.7	0.0	3.8	▲6.9
旅館・その他宿泊所	16	37.5	18.8	-	-	-	12.5
その他小売・サービス業等	119	▲7.6	▲26.1	-	-	-	▲10.2
卸・小売・サービス業計	135	▲2.2	▲20.7	-	-	-	▲7.5
建設業計	53	11.3	▲3.8	-	-	-	▲5.8
非製造業計	188	1.6	▲16.0	-	-	-	▲7.0